

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

トマトキバガの発生状況と防除対策（技術情報第9号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

県内各地に設置したトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が前年より早くから増えている。今後さらに増加する可能性があるため、トマト栽培においては、施設内での発生に注意し、他の害虫対策と同様に、入れない対策や薬剤防除を徹底する。

1 発生状況

- （1）県内6か所に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は、調査を開始した令和4年度以来、年々増加している（データ省略）。
- （2）県内5か所（玉名市・熊本市・宇城市・八代市・合志市）に設置したフェロモントラップ誘殺数は、8月以降、前年より多い状況が続いている（図1～5）。特に、玉名市・宇城市・八代市では、9月上旬に急激な増加が見られる（図1、3、4）。
- （3）阿蘇市では、9月は前年より少なく推移したものの、増加傾向にある（図6）。
- （4）過去4か年の調査結果から、いずれの地点も10～11月にピークを迎える傾向にあり、今後さらに誘殺数が増加する可能性が高い。

2 防除対策

秋期は、ハスモンヨトウやオオタバコガ等、他のチョウ目害虫の発生も増加しやすい時期である。コナジラミ類対策も含め、次のとおり、施設内に入れない対策や薬剤防除等を徹底する。

- （1）冬春作の施設栽培では、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置し、侵入を防止する。定期的に施設周辺を見回り、ハウスビニルや防虫ネットに破れがないか点検し、破損部は速やかに修繕を行う。
- （2）ほ場内をよく見回り、被害の早期発見に努める。病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>）にフェロモントラップへの誘殺状況を掲載しているので参考にする。トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているため、よく観察する（写真1）。
- （3）被害葉や被害果実は速やかに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。被害残渣を野外に放置すると周囲に拡散するため、土中に深く埋設するか、ポリ袋等に1か月以上密封した後に処分する。
- （4）トマトキバガに登録のある農薬を散布する。薬剤の選定に当たっては、熊本県農業研究成果情報No.1068（<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/252558.pdf>）およびNo.1115（<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/286329.pdf>）を参考にする。散布に当たっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の

異なる薬剤をローテーションで使用する。特に、前作で発生したほ場では初期防除を徹底する。トマトキバガの密度を抑制し、拡散を防ぐため、薬剤防除は栽培終了2週間前まで継続する。

- (5) 栽培終了後は、速やかに施設内の植物を枯死させる。マルチ等の資材にも蛹や幼虫が付着している可能性があるため注意する。

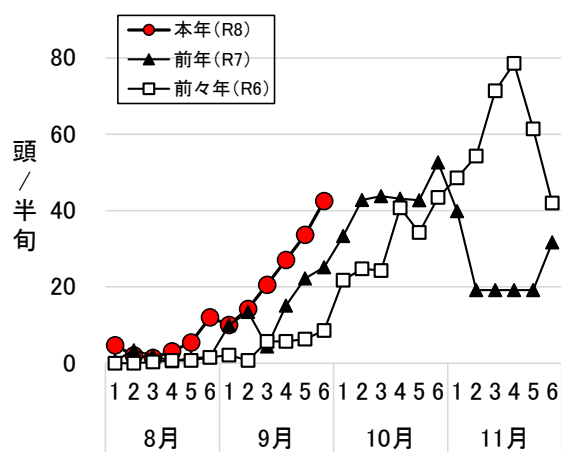


図1 フェロモントラップ誘殺数(玉名市)

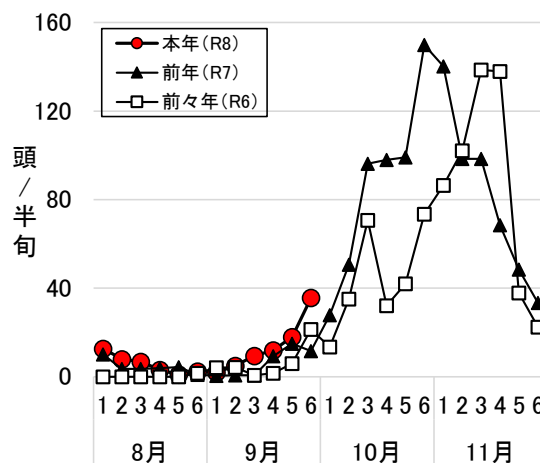


図2 フェロモントラップ誘殺数(熊本市)

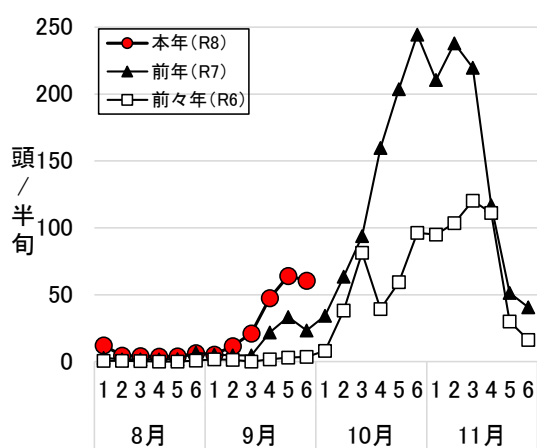


図3 フェロモントラップ誘殺数(宇城市)

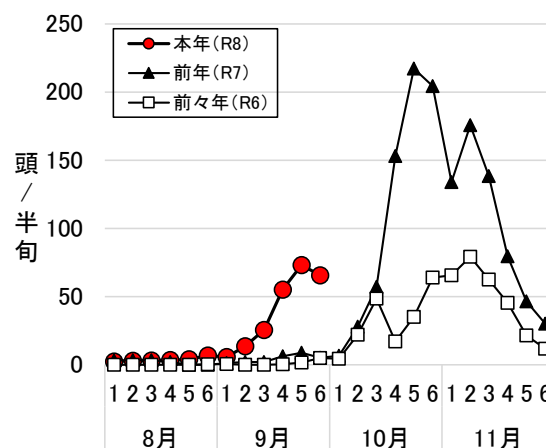


図4 フェロモントラップ誘殺数(八代市)

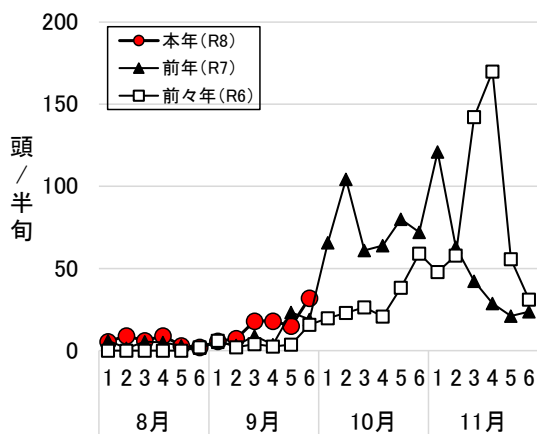


図5 フェロモントラップ誘殺数(合志市)

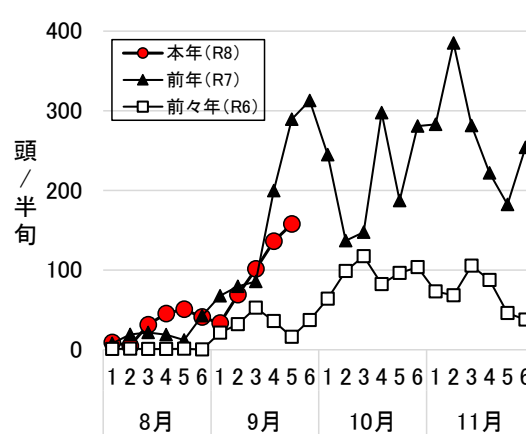


図6 フェロモントラップ誘殺数(阿蘇市)



- ・面的に食害される。
- ・葉が透けて見える。
- ・糞が1ヶ所に固まっている。



- ・線的に食害される。
- ・糞が食害の筋上にある。

写真1 トマトキバガによる食害痕（左）とハモグリバエによる食害痕（右）

熊本県病害虫防除所
 （熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
 担当：永野、今山
 TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493